

町民に愛され、歴史を語る広報紙。

広報あしやは、令和5年7月号で1000号を迎えました。創刊号発行から約55年の間、広報あしやでお知らせしてきた町政の歴史や広報の歩みを振り返ります。また、広報あしやを育てた人やこれまで登場してくれた皆さんにもスポットを当ててみました。

広報あしや創刊号

昭和43年5月20日発行



当時はタブロイド版で、年4~6回の発行でした。

広報あしやと役場だよりが統合し、A4サイズ・月2回発行へ。「広報あしや」の題字も同時にリニューアルしました。題字デザインは、芦屋町出身の野間夏男さん(元大学教授でイラストレーター)です。

※創刊号も野間さんがデザイン

広報あしや88号

昭和59年5月1日発行



平成5年

◆町制施行100周年あしやサンバ誕生

平成3年

◆町木「くろ松」・町花「はまゆめ」の制定

平成元年

◆総合運動公園が完成

昭和63年

昭和59年

◆文化福祉センター(現中央公民館)が開館

昭和53年

◆町立芦屋中央病院が幸町で開院

昭和51年

◆役場現庁舎が中ノ浜から新築移転

昭和49年

◆アーケードが完成

昭和45年

◆新競艇場完成

昭和44年

昭和43年

広報あしや300号

平成5年2月15日発行



広報あしや200号

昭和63年12月15日発行



200号当時の人口は、約1万8000人。現在より約5000人も多いです!

広報あしや100号

昭和59年11月1日発行



広報あしや755号
平成24年2月1日発行



広報あしや700号
平成21年10月15日発行



広報あしや500号
平成13年6月15日発行



国の重要文化財で
あしやあられしんなりがま
ある芦屋霰地真形釜
が芦屋町に里帰り！

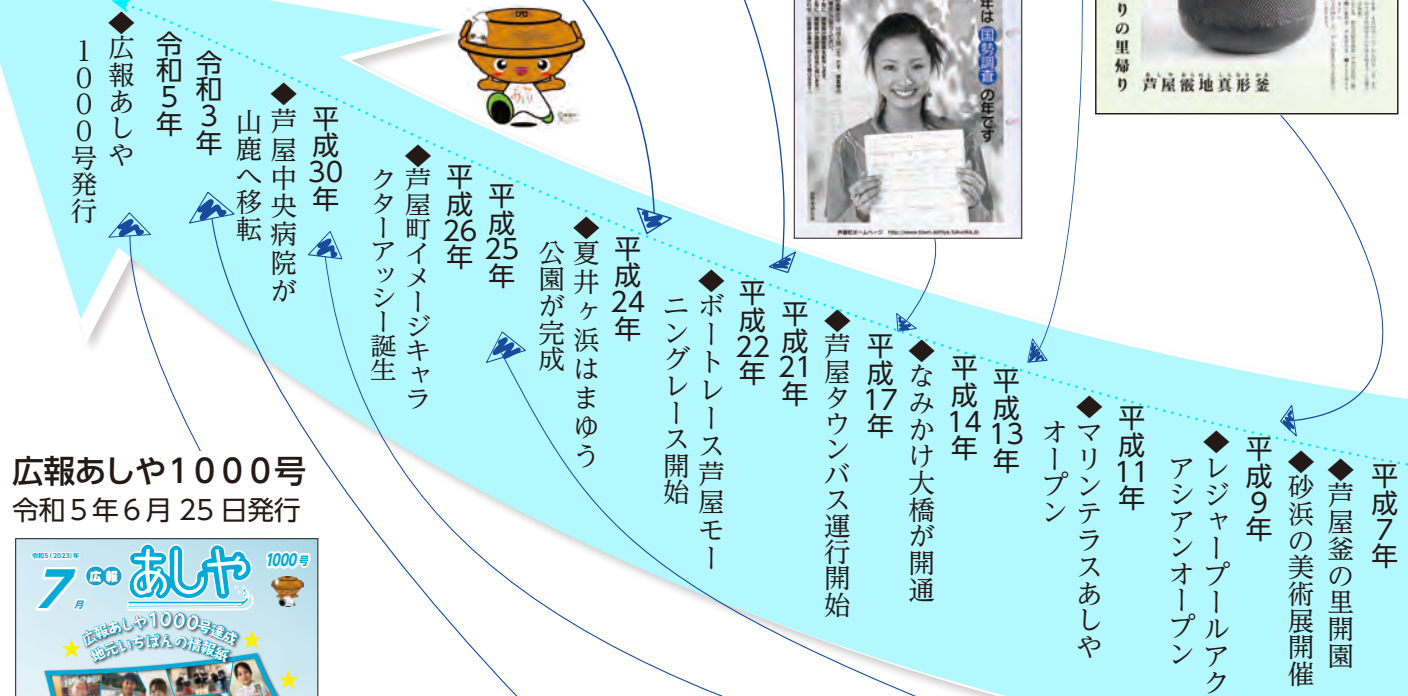
広報あしや400号
平成9年4月15日発行



広報あしや600号
平成17年8月20日発行



初のフルカラー
表紙！成人式の華やかな様
子がきれいに載っています。



広報あしや1000号
令和5年6月25日発行



広報あしや973号
令和3年4月1日発行



広報あしや900号
平成30年2月15日発行



広報あしや800号
平成25年12月15日発行



現在の月1回
発行になりました。
また、町制施行130
周年記念ロゴが発表さ
れた号でした。

広報あしやを育てた人にインタビュー

昭和52年から約8年間、役場の広報担当者として作成に携わり、現在の広報あしやの基となる形を作った、大長光信さんに当時を振り返ってもらいました。



昔の広報あしやを見ている大長光信さん

Q どのように広報紙を作っていましたか

A まだパソコンもワープロもない時代だったので、記事は原稿用紙に手書きで書いていました。取材でのインタビュー内容もカセットテープに録音していたんですが、書き起こすのも一苦労でした。インタビューはその日のうちに原稿にしないと、話したニュアンスが変わってしまうので、家に帰って

夜の12時を回って、妻に手伝ってもらいながらやっていたこともありました。起こした原稿を基に紙面のレイアウトを考えて、とにかく全部手作業でやっていたのが大変でしたね。当時は担当1人でしたから。

Q 当時は、「役場だより」と「広報あしや」があって2つを統合したとのことですが

A 役場だよりには「お知らせ記事」、広報あしやには町の計画など「行政の情報」を載せていたのですが、役場だよりの方が生活に直結する情報なのでよく読まれていました。お知らせ記事と行政の情報と一緒に載せることで、町にどんな問題があって、どのように進んでいくのか、町の動きや将来像を町民の皆さんに知ってもらえると思い、両方の良さを生かして統合しました。

Q 広報紙を作るときに、特に注意・意識していたことは何ですか

A 「中学生が読んでもわかる表現にしないと」と昔から言われていたので、読みやすい紙面づくりに

なるような心がけていました。また、広報紙を統合してからは特に、できるだけ多くの町民に紙面に出てもらうようにしていました。親戚や友だちが載ると皆さんに喜んでもらえるんですよ。

Q 取材などで苦労した話、思い出話などありますか

A ひとつは、花火大会の写真です。目で見るような花火の写真が簡単に撮れると思って、フィルム1本分撮ったんですが、いざ現像してみると、夜空の黒に白い点々が付いているだけの写真でした。あわててカメラが得意な先輩に撮り方を教えてもらいました。しっかり撮れた時はとても感動しました。もちろん、広報の表紙に使いましたよ。

もうひとつは、当時中学生だった中西千枝子さん（元オリンピック全日本バレーボール代表選手。現在は濱田千枝子さん）を取材



したことです。中西さんは、陸上競技でもバレーボールでも同時に活躍していたんですが、後にオリンピックで活躍する名セッターになった人取材したと思うと誇らしく思います。

Q 現在の広報あしやにアドバイスをお願いします

A 過去に起こったことだけでなく、今の情報や未来のための情報を発信してほしいですね。例えば、取材に行つて、町民の人から話を聞いて、そこからわかる町のテーマを特集記事にしたり、分かりやすくするために専門家の話を聞くなど、よく調べて、かみ砕いて町民の皆さんにお知らせすることが必要かなと思います。

Q 最後に広報あしや1000号への想いを聞かせてください

A 1000号というのは重みを感じますね。広報の歴史でもあり、町の歴史、そして、町人の歴史です。1号に1人としても最低でも町民が1000人載っていますからね。広報は町民にとって、とても重要な情報源なので、絶やすことなく、2000号、3000号と続くように頑張りたいです。

広報あしやに載った人にインタビュー



【広報あしや411号】(平成9年10月1日発行)に掲載された吉田博恵さん(祇園町)。当時はみどり園に務めており海外へ視察に行った話と障がいのある人への思いを語っていました。現在は、NPO法人障がい者Y Yくらぶの理事長を務め、広報あしやの配布にも携わっています。

「Y Yくらぶができたころから広報を配らせてもらってます。施設のみならず広報を配ると、町民から話しかけてもらえます。地域の人とつながりができて、私たちにとっても町民にとっても広報あしやは大切なんだと実感しています」と話していました。



【広報あしや2号】(昭和43年8月1日発行)に掲載された重岡利栄子さん(山鹿)。4歳の時に心臓の手術を受けるための血液が足りず、町ぐるみの愛の献血運動が行われ、無事、手術が成功した報告と感謝の記事が掲載されました。当時は医療の技術が発達しておらず、手術当日に採取した血液が必要で、町民約30人、航空自衛隊員約100人の献血が行われたそうです。

「そのころの記憶はしっかり覚えていて、泣きながら手術室に入りました。たくさんの皆さんに助けていただいたことは家族からもたくさん話を聞きました。皆さんのおかげで私は生きています」と話してくれました。



現在は民謡歌手・藤永翠珠として活躍中

【広報あしや669号】(平成20年7月1日発行)に掲載された中西奈津子さん(現在は田島奈津子さん。山鹿)。全国各地の民謡大会優勝者が日本一を競う「日本民謡フェスティバル」が東京NHKホールで開催され、初出場でグランプリを獲得した、中西奈津子さんの快挙が報告されました。

グランプリ受賞後は、「民謡魂ふるさとの唄」などNHKテレビ・ラジオの番組出演で全国のステージに立ち、民謡ファンを魅了し続けています。また、地元では芦屋町敬老会や祭りあしやに出演され、三味線の音色と美しい歌声、笑顔のお話で、町民の皆さんを元気にしてくれています。



【広報あしや509号】(平成12年11月1日発行)に掲載された乾大樹さん(現在は中山大樹さん。大阪府)。芦屋のイカをブランド化する取り組みが行われ、全国からブランド名を募集したところ、844通の応募があり最優秀賞に選ばれたのが、当時山鹿小学校4年生だった中山大樹さんと一緒に考えた祖母の中山輝子さん(山鹿)の「あしやんいか」でした。

考案した大樹さんは「芦屋町にはたびたび帰郷しています。芦屋サンバをまた踊りたいです」というほど地元愛にあふれた元町民です。「祖父母も一緒に1000号に登場できてすごうれしです」と話していました。

▽問い合わせ 広報情報係 (☎) 223・3569



△現在の担当者左から鎌守美恵子・那木吾郎・手塚孝成

地元にも最も密着した情報紙「広報あしや」
インターネットやSNSが普及し、情報を得る手段は多様化しています。そんな中でも、広報あしやが最も情報収集に使われているというアンケート結果がありました。広報あしやが、今でも町民の皆さんにとって重要な情報源であると受け止めています。
今号で1000号を迎えましたが、これからも皆さんへ暮らしの情報をお届けし、皆さんの近況を発信することで、最も身近な情報紙であり続けたいと思います。

